

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078700145
法人名	有限会社 裕和
事業所名	グループホーム陽だまり
所在地	福岡県みやま市瀬高町下庄480-3
自己評価作成日	平成29年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成29年8月22日	評価結果確定日	平成29年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田舎の地域にあり、時々ご近所の方も遊びに来られる地域に根付いたグループホームでありたい。食事が自慢なので、沢山のご近所の方も食べに来られる施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は田園に囲まれた中に立地しており、静かな環境にある。平成16年に開設し、13年という長い月日の中で地域との繋がりも強く、地域に根ざした施設となっている。法人で出前講座、認知症予防教室、ウォークラリー、認知症カフェなど様々なイベントを行っている。事業所の管理者が管理栄養士でもあり、バランスの良い食事や行事食が提供され、イベント時には地域の方々へも振舞っており好評を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に見える所に事業所の理念を掲げ、管理者・職員と共に唱和している。	理念である「地域で共に暮らせる幸せ、のんびり、ゆったり、その人らしく」は事業所内にも掲示され、毎日朝礼で唱和し、職員も理解できている。日々の中でも、利用者がのんびり、ゆったり、その人らしく過ごせるようなケアを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の彼岸詣りに招待され参加している。施設の夏祭り等のイベントに多数参加されている。	今年の事業所の夏祭りには地域の方々が多参加された。地域からは介護施設の種別や料金などを教えて欲しいとの要望があり、出前講座の開催を予定している。地域との関係は良好で、事業所は地域の中に定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年の1回の出前講座、他に年3回の認知症予防教室の実施、当法人主催の認知症カフェの実施、年2回のウォークラリーを開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、地域の実情に応じた忌憚のない意見も出て、施設運営上も参考にする点が多い。	区長、老人会会長、民生委員、相談員、市の職員が参加している。運営推進会議にて独居高齢者の集う場所を作って欲しいとの意見があり、系列施設と共同で認知症カフェを開催したところ、毎月多数の参加がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係がより密になる様、努力中である。	運営推進会議には、毎回市の介護保険課課長が参加しており、顔の見える関係が構築されている。運営推進会議内で、事業所の実情や取り組みをしっかりと伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を通じ職員の意識向上に努めている。また、日中玄関は無施錠となっており、利用者が散歩に出掛けたい時は、安全に配慮し職員と一緒に出掛けるようにしている。	県主催の外部研修を受講し、事業所内での勉強会で全職員へ伝達して身体拘束への理解を深めている。事業所の玄関は施錠しておらず、屋外へ出たい利用者には職員が付いていくなど、鍵を掛けずに安全に過ごせるようなケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内勉強会において高齢者虐待について学び、様々な実案件において職員同士で自由闊達な意見の交換をしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内勉強会にて学ぶ機会を持ち学習している。必要性があると思われる時は活用できるよう支援している。	社外研修、事業所内研修で学習しており、職員も理解できている。家族から相談がある時には、常備されているパンフレットを用いて説明できる状況である。現在は制度活用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族に対して説明を行い理解を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の意見を反映するために、ご意見箱を設置している。意見の無い時はアンケートを提出してもらう。	面会時や意見箱で意見を伺っている。また、年1回のアンケートで匿名での意見表出も可能な状況を設けている。介護方法についての意見が出た際には、介護技術を再度勉強して見直しを行い、実践につなげている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の勉強会、又は旅行、食事会等を共にし、各々の意見を聞く機会を設け運営に反映させる。	日々の業務内でも日常的に意見交換を行っている。研修旅行、忘年会、食事会を開催して意見を出しやすい雰囲気作りを行っており、物品購入や業務についてなど、相談しやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各々が自己を評価し採点した後、管理者の採点との差がないか点検し、著しい差については相互に話し合いを設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	人材をどうこうと理由を付けて選べる時代ではない。その人の持つ能力が十二分に発揮される様に働いてもらえる人材が欲しい。	職員募集に制限は設けておらず、現在30～60代の職員が勤務している。資格取得などのスキルアップに対して費用を法人で負担するなど、支援体制は整っている。資格取得できた場合には、褒賞としてグループホーム全国大会に参加できるなど、意欲の向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員全体の勉強会にて教育している。事業所での朝礼において啓発活動（唱和）を行っている。	事業所内の勉強会で人権教育を行い、朝礼にて人権についての掲示を唱和し、啓発活動にも取り組んでいる。言葉づかいや動作にも常に注意を払い、利用者に対する人権を尊重している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	より高い技術の習得、資格取得の為、出来る限り研修の機会を作ることに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来る限り勉強会には参加してもらっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が困っている事、不安な事、要望等を傾聴し、信頼関係を築くと共に、安心してサービス利用を開始できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、不安な事や要望等の相談を受け、利用者様やご家族の方が安心してサービスの利用を開始できるように信頼関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、本人様の要望や不安なことをお聞きし、今の段階で必要とされている支援をお尋ねしながら適切なサービスが受けられるよう対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と本人様が一緒に身の回りのことや日常生活の活動を行なうようにして、本人様と共に生きる、共に生活する場となる様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へのアセスメントも実施し協同で計画書を作成できる様にしている。必要に応じて面会して頂き、ご家族との絆が切れ目なく続くように支援をしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご家族との外出や面会を自由に行っていただき関係が途切れない環境作りをしている。また、各行事では地域の方の参加をお願いしている。	お正月には、家族、友人宛に年賀状を書き、近況報告できるようにしている。また、隣の住宅型有料老人ホームに遊びに行ったり、遊びに来てもらったりと馴染みの関係が継続できるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が仲良く生活される様、又孤立されない様、支援している。座る席順の工夫、話題の提供、レクレーションへの参加等により関係が良好になるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、本人様、ご家族の方より相談を受けたり、経過をフォローするなど支援を行っている。行事等への案内も行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設内で本人様がして欲しい事を、四方山話の中で聞き出すようにしている。	希望や意向は本人から聞いているが、言えない方は、家族から昔の様子を聞いたり、日頃の言動から情報を得たりして、本人本位の意向を検討、把握している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族にアセスメントを行う。家族の面会時に過去のエピソードを伺う。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックにて健康状態の把握をし、残存機能の低下防止を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・ご家族・Dr.・Ns・介護スタッフと連携しながらケアプラン作成を行う。	様々な視点でケース会議を行いながら、本人の意向を取り入れた介護計画を作成している。日頃の業務の中でも、職員に確認しながらモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別支援経過記録、業務申し送り事項をベースに、心身の変化に沿ったプラン見直しをしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護員、ケアマネージャの職種による垣根を越えた見守り支援サービスを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる手芸教室への参加、ウォークラリー、夏祭りを始め、季節行事の企画をしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、かかりつけ医の往診あり、状態に合わせた投薬がなされている。	本人、家族の希望するかかりつけ医を継続受診できる体制を取っているが、重度化した際には訪問診療を希望される方が多い。受診時は家族に協力を仰いでいるが、透析や専門医の受診などは事業所で対応し、適切な医療を受けられるようにしている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談をし、意見を求めて早期対応にて受診や看護が受けられるように、努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ADL等の情報を提供し、医療機関とも密に連絡をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様、ご家族の方と早い段階にて話し合いをしている。また、職員間においてもケース会議を行っている。	入居時から終末期までに本人、家族へ看取りの意向を都度確認し、同意書を交わしている。看取り開始時には、主治医を始め、チームで計画書を作成している。今までに多数の看取り経験があり、十分な支援体制が取れている。	今までの多数の看取り経験をケアの集大成として、看取り指針の作成をし、事業所での看取り介護の取り組みを更にレベルアップさせ、本人、家族も安心して看取り介護を任せられる事業所となることを期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各利用者様のリスクをスタッフ間で情報共有している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。	隣接の住宅型有料老人ホームと合同で年2回夜間想定を含めた避難訓練を実施している。訓練には運営推進委員も参加し、地域への協力を仰いでいる。事業所内には備蓄も準備されており、職員も災害時の避難場所を把握している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、思いやりをもって声掛けを行う。	利用者の尊厳を大切にしている。方言を交えた優しい声かけをするように努めているが、適切ではない場合などは、都度管理者が指導を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら、利用者様の訴えに耳を傾け、自己決定できるよう工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を尋ね、利用者様のペースを大切に過ごしてもらえるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師に来てもらい散髪をしている。化粧水や保湿クリーム等、用意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の作業能力に応じて食器拭き、テーブル拭き、エプロン洗い等を職員と一緒にやっている。	食事の好みを聞き、管理栄養士である管理者がバランス良いメニューを考えて提供している。利用者には食器やテーブル拭きを手伝ってもらっている。ご飯は柔らかく、トマトは皮を剥いて提供するなど、食べやすい工夫がなされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分量をチェックし利用者様の状態を確認しながら、摂取の促しに努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自力にてできない方には介助を行い、義歯使用の方については、ケア後の確認を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表へのチェックにて排泄状況の把握に努めている。時間に応じてトイレの声掛け、誘導を行い、排泄の訴えがあればすぐに対応するよう心掛け、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で水分量、尿回数、量などをチェックし、排泄リズムを把握している。おむつ外しに取り組んでおり、各利用者それぞれのパターンや習慣でトイレ誘導を行っている。誘導時には羞恥心に配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に水分提供を行い摂取を促している。個々に応じた適度な体操・訓練・レクリエーション等を実施している。また、バランスの良い食事にも気掛け、水分摂取の不得手な方には対策を講じている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を実施している。利用者様に時間の希望を聞いたりし、個々に応じた声掛け、案内を行っている。入浴前にはバイタル測定を行い、体調のチェックをしている。	利用者の希望する時間に入浴を提供している。また、本人の習慣に合わせて、ゆっくり時間をかけて入浴できるよう支援している。重度の方でも安全にゆっくりお湯に浸かっていたりできるよう2人体制で支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の睡眠状況を記録している。照明や空調等の調整を行い、夜間安眠して頂けるよう、日中の活動にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師の指示や指導のもと薬の管理を行っている。服用の際には間違いのないよう注意を払い、服用後は空袋を個々の名前を示した仕切りケースに回収し、再確認に努めている。症状の変化ある場合は、医師との連携を図り対処に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた掃除や片付け等の手伝いをして頂いたり、本人様の希望される事への支援を行っている。また、地域の方の協力を得て、手芸教室を開催している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調や気分を見ながら、屋外散歩や季節に応じて花見や展示物等の見学へ出掛けている。ご家族の申し出があれば外出や外泊を支援している。	毎日散歩に出かけたり、毎月ドライブに出かけたりしている。最近ではアジサイを見に出かけた。本人の希望で買い物に出かけることもある。以前は家族と温泉に出かけたりしていたが、重度化し難しくなっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭（お小遣い）に関しては、ご家族の希望で施設にて管理している。外出・物品購入等、必要に応じて本人様にお金を手渡したり、ご家族に説明を行い使用している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば支援を行っている。ご家族からの電話も取り次ぐよう努めている。正月や盆の年賀状・暑中見舞いも希望される方には支援を行い、可能な方には自筆で書いてもらっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、清掃を行っている。日中1～2回は窓を開け換気をし、照明・空調の調節を行い、不快のないよう心掛けている。リビングには利用者様と一緒に作成した季節感のある壁画や毎月のカレンダーを掲示している。	共有スペースであるリビングは、光が差し込んで明るく、広さも十分にある。廊下や壁には行事の写真や、利用者が作った作品などが飾られている。全体的に木のぬくもりが感じられ、居心地の良い空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不快がないよう座席に注意を払い、状況に応じてテーブル席であったり、ソファへの誘導を行っている。独りを望まれる時は居室で過ごされるよう声を掛け、時には外のベンチで外気浴をして過ごされることもあり、見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や花・手芸教室で作った作品を飾ったり、本人様の以前より使用されていた家具等を置き、希望される物がある場合は、ご家族と相談し持参していただいたりしている。	居室内には自宅で使用していたダンスや仏壇が配置されており、壁には写真や作品、賞状などが飾られている。ベッドは、畳ベッドが導入されており、和を感じられる落ち着いた空間となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の障害にならないように家具・備品の配置を考慮している。居室やトイレには見やすい表示をしており、誰もが分かるようにしている。また、家事においても能力に合った手伝いをして頂いている。		